

□書 評□

菊地博, 小篠暉, 菅野卓郎 編集

日一英独仏 医学 会 話

聖路加病院内科医長 日野原 重 明

菊地・小篠・菅野3氏による「医学会話」第2版を最近よんだものとして、若干の感想を述べたい。

本書はポケットに入れて車の中やちょっと患者を待っているときなどに、短い時間を利用して気軽によめる医学会話の本である。

第1版では日一英一独であったのが、仏語が新たに加えられている。

戦後このような会話の本がいくつか出版されたが、本書は各科にわたる医師と患者との会話を正確でありながら、くだけた表現法で外国語の話し方を考えるすぐれたテキストと

して改版と共にさらに医師や医学生のために広くよまれることをねがった本である。

内容は10章に分かれ、各章が内科専門医とか外科専門医とかその他10人の専門医のところを訪れる患者をそれぞれの章に2人登場させて、医師と患者との会話を英、独、仏語ですすめている。

今後世界を舞台に活動する若い医学徒は、少なくともこの会話書に出てくるような3つの国の言葉の大よそは理解できることを希いたい、そのうち少なくとも一カ国語は洗練

されたスマートな使い方が出来るように努力してほしい。

本書では、医師が患者に説明する言葉使いは、やや専門的で、かなりインテリの患者への説明のようにうけとめられるが、このような調子で Care presentation を医師同志の間でやればよいのであって、簡単な表現法であっても、ここにかかれた表現法をくりかえし口ずさんでおれば、外国語での表現力のレベルアップがなされるものと思う。

本書は気軽に通読できるが、会話の本は文章のスタイルをそのままの形で吸収するためにくり返しよまなければならない。くり返して読めばよむほど、文章の味が出、興味も一層増すものである。

新書判 頁 177 ￥ 1,100 円50

医学書院刊